

防災ハザードマップ

美郷町
misato town

保存版

いざというときに備え、
日頃から避難場所、避難経路、
家族の連絡先など、この防災ハザード
マップを活用いただき
減災に役立ててください。



美郷町マスコットキャラクター
【みさとちゃん】



防災メモ 避難時に備えて書き出しておきましょう。

わが家の避難所	家族が離ればなれになった ときの集合場所	災害時の緊急連絡先	非常時持ち出し品 の置き場所

美郷町役場 総務課

所在地 〒883-1101 宮崎県東臼杵郡美郷町西郷田代1番地

電話番号 0982-66-3601 / FAX 0982-66-3137

E-mail h-soumu@town.miyazaki-misato.lg.jp

南郷支所

TEL 0982-59-1601

FAX 0982-59-1119

北郷支所

TEL 0982-62-6201

FAX 0982-62-5021

美郷町ハザードマップ

美郷町ハザードマップは、河川のはん濫や土砂災害などにおける人的被害を軽減することを目的として、町民のみなさんが安全な行動をとるために必要な情報を掲載した地図です。

町民のみなさんが安全に避難するために必要となる情報として、宮崎県がシミュレーションした浸水の範囲や深さ(浸水想定区域図)や土砂災害(土砂災害警戒区域) また、避難所、避難場所などの情報が記載されています。

なお、地図に示した区域以外の場所でも、場合によっては浸水や土砂災害の発生することがありますので、十分注意して行動してください。

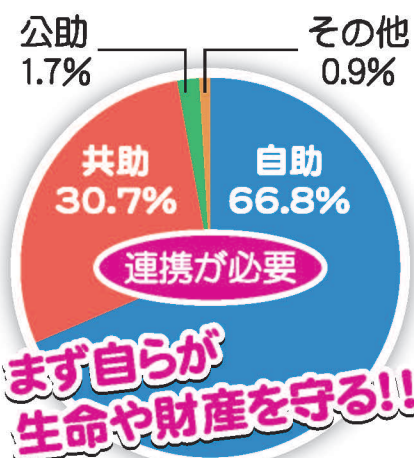


地域防災推進 3原則

- ✓ **自助** 「自助」とは、自ら(家族も含む)の命は自らが守ること、または備えること
- ✓ **共助** 「共助」とは、近隣が互いに助け合って地域を守ること、または備えること
- ✓ **公助** 「公助」とは、役場や消防・警察による救助活動や支援物資の提供など、公的支援のこと

調査

阪神淡路大震災で生き埋めになった人たちが、
誰によって救出されたか?



(出典) 社団法人 日本火災学会
「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」
(標本調査、神戸市内)。平成8年11月

大規模な災害であればあるほど、「役場や消防・警察が何とかしてくれるはず」と期待しがちですが、公助にも限界があります。防災対策・災害対応においては、**まず自らがその生命や財産を守り**、そこから共助 / 公助に期待される役割を大きな団体・組織が行っていくという考えが基本となっていると言えるでしょう。

左記は、阪神淡路大震災で生き埋めになった方々が誰によって救出されたかを調査した結果です。これを見ても、災害対応における自助 / 共助の果たす役割の重要性が分かります。



防災に備える。命を守る。



避難時の心得



正確な情報収集と早めの行動を

ラジオ・テレビ・インターネットなどで最新の気象情報や避難情報などの災害情報を入手しましょう。

危険を感じたら早めの行動を心がけましょう。火元等の確認も忘れずに。



お年寄りなどの避難に協力を

お年寄りや子ども、病人、障がいのある人は、早めの避難が必要です。近所のお年寄りや子ども、病人、障がいのある人などの避難に協力しましょう。



避難の呼びかけに注意を

危険が予想される状況となった場合には、役場や消防団などから避難の呼びかけをすることがあります。避難の呼びかけがあった場合には、それに従いましょう。



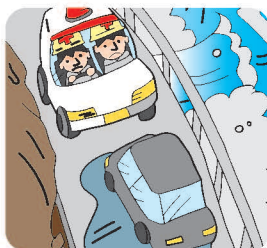
自動車での避難は気を付けましょう

自動車での避難は、あわてることなく、低速で走行するとともに、カーラジオ等により継続して災害情報や交通情報を聞き、その情報に応じて行動しましょう。また、緊急車両の交通の妨げにならないように配慮しましょう。



動きやすい服装、2人以上での避難

避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。その際には、さぐり棒を持ち、側溝や排水路に転落しないように注意しましょう。

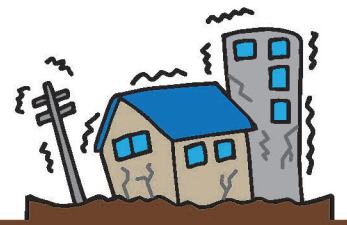


道路に車を放置しない

消防活動や避難する人の通行や応急対策の実施の妨げとなるような場所には自動車を放置しないようにしましょう。やむを得ず置いて避難するときは、エンジンを止め、エンジンキーは付けたままとし、ドアはロックしないようにしましょう。



地震について



地震発生時の行動

地震発生

まず、身の安全

- ・机の下に入る。
- ・クッション、雑誌などで頭を保護する。
- ・家具から離れる。
- ・ガラス面から離れる。

大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、まず身を守り、揺れがおさまるまで待ちましょう。



普段から家の中の安全チェックをしましょう。住宅用火災報知器も設置しておきましょう。



2分 と 5分

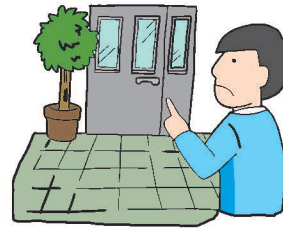
大揺れがおさまった

- ・台所やストーブなど火の始末をしましょう。
- ・避難の時は、ブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めましょう。

5分 と 10分

家族の身の安全を確認、確保

- ・家族の安全の確認、確保
- ・災害情報、避難情報の入手
- ・避難のための出口の確保
- ・ガラス片や転倒家具の注意



10分 と 半日

隣近所の安否確認、助け合い

- ・倒壊家屋や転倒家具の下敷きになっている人の救出
- ・火災発生時の消火活動
- ・けが人の救護



半日 と 3日

2、3日分は自分でしのご

地震発生後数日間、水道、ガス、電気、電話等ライフラインをはじめ、食糧の供給が途絶えます。

2～3日は自分でしのげるように、生活必需品(非常用品)を備えておきましょう。

地震は突然やってきます

地震だ！まず身の安全

揺れを感じた時は机の下などに頭をかくし、わが身と家族の身の安全を優先しましょう。

落ち着いて火の始末をしましょう

大きな地震の場合は、まず身の安全を守ることを優先してください。

あわてて外に飛び出さない

すぐに外に飛び出すのは危険です。状況をよく確かめ、落ち着いて行動しましょう。

戸を開けて出口の確保をする

ドアがゆがみ、部屋に閉じ込められることがあるので戸を開けて出口を確保しましょう。

正しい情報で行動する

災害時はデマなどに惑わされやすくなります。報道機関や役場、消防・警察からの情報に注意しましょう。

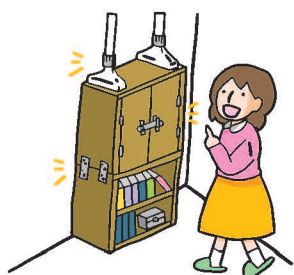


震度による感じ方の目安

気象庁が平成 21年 3月 31日より改定した「気象庁震度階級関連解説表」の運用より抜粋

震度 0	人は揺れを感じないが、地震計には記録される。	震度 5 強	大半の人が、物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが増える。テレビが台から落ちることがある。
震度 1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。	震度 6 弱	立っていることが困難になる。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
震度 2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。	震度 6 強	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに増える。補強されているブロック塀も破損するものがある。
震度 3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人もいる。棚にある食器類が音を立てることがある。	震度 7	
震度 4	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。		
震度 5 弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまらなると感じる。電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。		

地震に備える 身の安全を備える



■ 家具類の転倒・落下・移動防止対策をしておきましょう。

けがの防止や避難に支障のないように家具を配置しておきましょう。家具やテレビ、パソコンなどを固定し、転倒・落下・移動防止措置をしておきましょう。



■ けがの防止対策をしておきましょう。

食器棚や窓ガラスなどには、ガラスの飛散防止措置をしておきましょう。停電に備えて懐中電灯をすぐに使える場所に置いておきましょう。散乱物でケガをしないようにスリッパやスニーカーなどを身近に準備しておきましょう。



■ 家屋や塀の強度を確認しておきましょう。

家屋の耐震診断を受け、必要な補強をしておきましょう。ブロックやコンクリートなどの塀は、倒れないよう補強しておきましょう。



土砂災害について



土砂災害 土砂災害の種類

斜面崩壊
(がけ崩れ)



土石流



地すべり



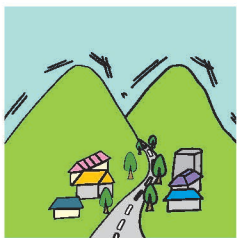
急な崖地や山の斜面が突然崩れ落ちる現象を、斜面崩壊(がけ崩れ)といい、国内で最も件数の多い土砂災害です。一瞬にして崩れ落ちるので、逃げ遅れる人も多く、被害が大きくなります。

このような被害を生じる恐れのある箇所を「急傾斜地崩壊危険箇所」といいます。

土石流とは、谷や斜面にたまった土・石・砂が大雨による水とともに、一気に谷を流れ下る現象です。スピードが速く破壊力も大きいので、大きな被害をもたらします。このような被害を生じる恐れのある渓流(渓谷や小川)を「土石流危険渓流」といいます。

粘土などの滑りやすい層の上にある斜面が、しみ込んだ雨水等の影響などでゆっくり動きだす現象です。一度に広い範囲が動くため、大きな被害をもたらします。このような被害を生じる恐れのある箇所を「地すべり危険箇所」といいます。

土砂災害の前兆 こんな前触れに要注意



山鳴りがする。



雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。



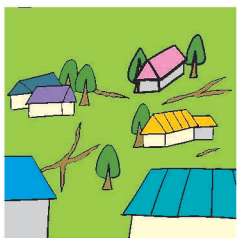
川の流れが濁り、流木が混ざり始める。



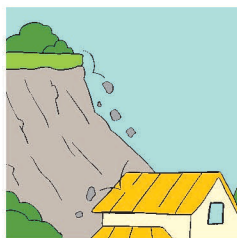
斜面から水が噴き出す。



沢や井戸の水が濁る。



地面にひび割れができる。



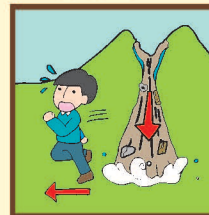
小石がパラパラ落ちてくる。

避難のポイント



雨に注意しましょう

1時間に20ミリ以上、または降り始めてから100ミリの降雨量になったら注意が必要です。



逃げ方を考えましょう

土石流は速度が速いため、土砂の流れる方向に対して直角に逃げないようにしましょう。



避難場所を決めておきましょう

日頃から家族全員で避難場所や避難する道順を決めておきましょう。

基本は情報収集

メール登録方法・利用手順については下のURLより確認ください。

宮崎県は、県民にメールで防災・防犯情報などを提供することにより、台風などによる風水害や地震などの自然災害および大規模な事故やテロなどの危機事象発生時における被害を軽減化することを目的に、携帯電話やパソコンへの「防災・防犯メール情報メール配信システム」を導入しました。自分の携帯電話やパソコンで登録し、防災・防犯に役立ててください。



宮崎県防災・防犯情報メール配信システムに登録しましょう



<https://www.fastalarm.jp/miyazaki/htdocs/>

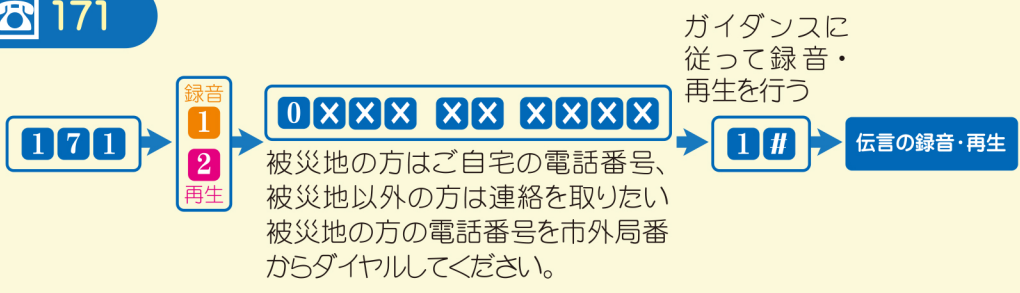
バーコード読み取り機能を使用する場合はQRコードを読み取ってください。

災害用伝言ダイヤル ☎ 171

災害発生時には、回線の混雑等により家族や知人の安否を確認することが難しくなります。NTTでは、この問題を解決するために、「災害専用伝言ダイヤル(171)」のサービスを提供しますので利用ください。

【伝言の録音・再生時に通話料がかかります。】

なお、提供の開始、登録できる電話番号(被災地電話番号)など、運用方法、提供条件については、状況に応じてNTTが設定し、テレビ・ラジオ・インターネット等を通じて知らせます。



「とるべき避難行動」について

避難指示(緊急)

緊急に避難して下さい。
外が危険な場合は、屋内の高いところに緊急に避難して下さい。

避難勧告

速やかに避難を開始してください。
外が危険な場合は、屋内の高いところに避難して下さい。

避難準備・高齢者等避難開始

次に該当する方は、避難を開始して下さい

- ・お年寄りの方、体の不自由な方、小さな子供がいらっしゃる方など、避難に時間のかかる方と、その避難を支援する方
- ・〇〇川沿いにお住まいの方(※)

なお、避難場所への避難が困難な場合は、近くの安全な場所に避難して下さい。
それ以外の方については、気象情報に注意し、危険だと思ったら早めに避難をしてください。

避難情報の種類

災害が発生し、または発生のおそれがある場合においては、皆様の安全を守るため避難の勧告や指示を行うことがあります。避難勧告や避難指示が出されたら、速やかに最寄の避難所に避難してください。

※美郷町指定避難所は、必要に応じて順次開設します。避難情報に注意してください。

緊急の度合い ↓ 高い	避難情報	住民の行動
	自主避難	身の危険を感じた場合、避難情報の発令の有無にかかわらず、速やかに安全な場所へ避難してください。
	避難準備・高齢者等避難開始	避難行動に時間を要する災害時要配慮者などは、避難場所等の安全な場所への避難行動を開始し、その他の方は、家族等との連絡や非常持出品の用意など避難の準備を開始する。
	避難勧告	避難場所等の安全な場所への避難行動を開始する。
	避難指示(緊急)	直ちに避難行動に移るとともに、そのいとまがない場合は生命を守る最低限の行動をとる。



持ち出し品



※準備に☑を活用してください。

避難するときの持ち物を準備しておきましょう。



懐中電灯



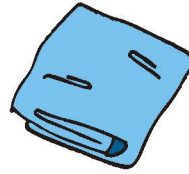
携帯ラジオ、予備乾電池



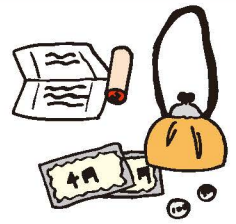
飲料水



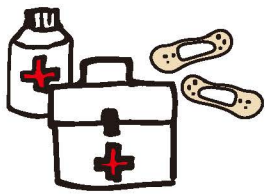
非常食



タオル



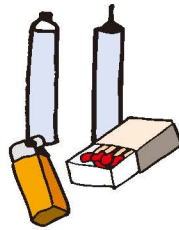
現金、印鑑、預金通帳



くすり、救急セット



衣類、下着類



ローソク、マッチ、ライター



ロープ

必要に応じて準備しましょう。

- ちり紙、マスク、カイロ
- 使い捨て食器、サランラップ
- セッケン
- 粉ミルク、哺乳瓶、紙おむつ
- ドライシャンプー
- 看護用品
- ヘルメット
- 軍手
- 靴、メガネ
- 身分証明書、保険証(コピー)
- 家族の写真
- ホイッスル

※靴は、枕元に準備しておくこと避難の際に安全です。



最低でも3日分、できれば1週間分を目安に備蓄を行いましょ

非常に広い地域に甚大な被害が及ぶ大災害の場合、食糧などの支援物資がすぐに届かないおそれがあります。そのため、ご家庭で非常食などを備えておく事も大切です。

防災ハザードマップの使い方

①まず、自宅の位置を確認しましょう。

ご自宅のある場所や近隣地区の土砂災害警戒区域や土砂災害危険個所などを確認しましょう。



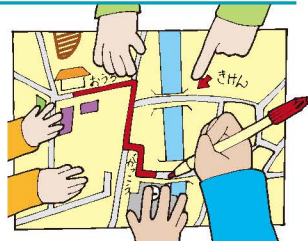
②次に、自宅付近の避難所を確認しましょう。

自宅に一番近い避難所を地図で確認しましょう。



③災害を避けて、避難経路を決めましょう。

土砂災害警戒区域や土砂災害危険個所などの災害を避けて避難経路を設定しましょう。



④実際に避難経路を歩いてみて、安全を確認しましょう。

家庭や地域で話し合いながら、実際に歩いてみましょう。避難経路に危険な場所がある場合には、避難経路を見直しましょう。

